

京都大学経済学部2014年度前期「農業経済論」

2) 農業経済学の分析視角

2014.4.15

経済学研究科教授

久野秀二

Shuji HISANO



アウトライン

- 農業経済学の体系について
- 農業の資本主義的發展と小農経営への視点
  - 農業の資本主義的發展＝農民層分解論
  - 小農経営の独自性と主体形成論
- 農業をとりまく市場への視点
  - 土地問題史観から市場問題史観へ＝農業市場論
  - フードシステム論と産業組織論的視点
  - フードシステムの構造論的分析
- 政治経済学・多国籍企業論からの視点
  - アグリビジネス論と政治経済学的視点
  - 欧米農業社会学の理論的諸潮流

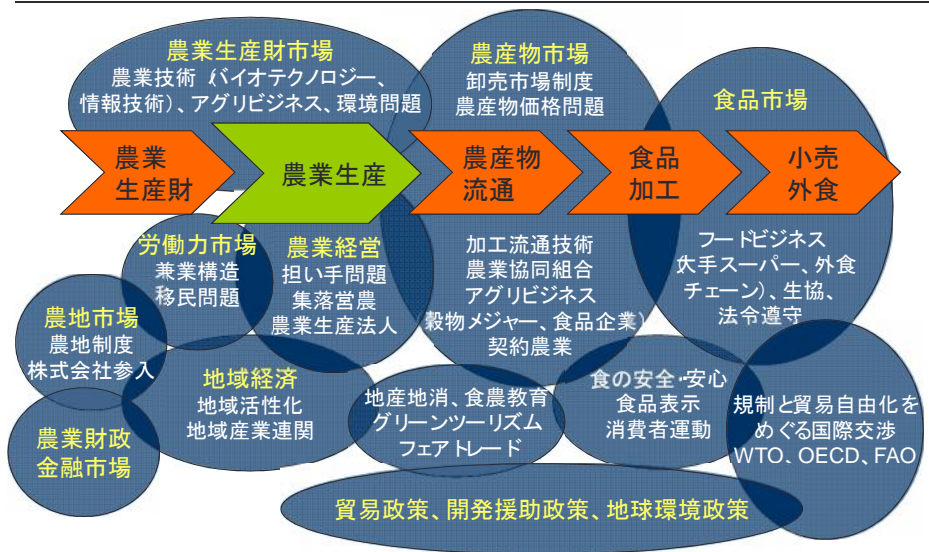


## 1-1 農業・食料問題を捉える諸側面

日本と世界の農業構造—農産物貿易 食料輸入依存構造—(対外経済政策)—農業・食料システムと農業関連企業 (アグリビジネス)、地域産業としての農業、食料消費構造と食生活の歪み、等々



## 1-1 農業・食料問題を捉える諸側面



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ 一般経済学と農業経済学

- 「ここで資本主義一般を対象とする理論経済学のほかに、農業経済学という特殊な経済学を必要とするのは、たんに農業という資本主義経済の生産部門についてより詳細な研究をするためだけではない。ここには経済学の一般理論や法則によつては一見そのまま説明することができないように見える多くの特殊な諸現象があり、さらには経済学の一般法則とあたかも矛盾し対立するかのように見える諸現象もあるからである。このような**資本主義のもとでの農業経済の特殊性を資本主義の一般経済法則を基礎に解明すること**にこそ、その課題がある」  
(梅川・東井・南編『農業問題の基礎理論』1974)



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ 古典的な農業経済学のテキスト構成

- **資本主義農業の基礎理論** (梅川ほか1974)
  - 資本主義農業と土地所有
  - 地代と土地価格
  - 農民的分割地所有
  - 農産物価格形成
  - 農業の資本主義的生産
  - 農業資本の回転と不均等発展
  - 資本主義のもとでの小農民経営
  - 独占資本主義と農業問題の激化
  - 農業恐慌と農業危機 etc



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ 主要大学農業経済学科・専攻作成のテキスト構成

#### ● 農業経済学（東大農経／生源寺ほか 1993）

- 農業経済学の課題と方法
  - 4つの理論フレーム…①市場経済と農業、②農業の技術的特質と経営、③農業・農村と政府、④史的アプローチ
- 農業の構造と政策（③）
- 農業と経営（②）
- 土地と農業（①）
- 国際貿易と農業（①）
- 農業の歴史（④）

#### <参考> 教育研究組織（大学院＝農業・資源経済学専攻、3講座6分野）

- 比較農業・経済学講座…農業経営学、農政学、農業史
- 開発政策・経営学講座…経済学、食料・資源経済学
- 農村開発金融学講座…農村開発金融学
- 協力講座…汎アジア経済研究室（東洋文化研究所）
- + 国際開発環境学講座（農学国際専攻）



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ 主要大学農業経済学科・専攻作成のテキスト構成

#### ● 農業経済学への招待（北大農経／太田原ほか 1999）

- いま、なぜ農業経済学か
- 食料問題の過去・現在・将来⑤
- WTO体制下の農産物貿易と農業保護政策／国際化の中での農業環境政策①
- 農業経営学の系譜と原理／農業の経営管理②
- 協同組合の発達と日本型農協／農業団体からみた日本農業史④
- 農産物の価格と流通⑤
- 日本の経験と農業開発／農業の国際化と技術移転③
- 農業経済学の分析方法…マルクス経済学と現代資本主義⑤／新古典派経済学と計量経済学③／統計学と農業統計②

#### <参考> 大学院教育研究組織（1講座6分野）

- 共生農業資源経済学講座…①農業環境政策学、②農業経営学、③開発経済学、④協同組合学、⑤食料農業市場学、⑥水産資源経営学



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ 主要大学農業経済学科・専攻作成のテキスト構成

- 農林経済学を再定義する（京大農林経済／『農業と経済』2014.4）
  - ・ システムと経営
    - ・ 食品選択と食農システムの未来：食農システムの調整と心理的行動、制度の役割
    - ・ 農業会計からビジネス感覚を磨く：農業経営のガバナンスと農業会計
  - ・ 評価と政策
    - ・ ミクロ経済学は政策をどう評価するか
    - ・ 森林の多面的価値をどう測るか
  - ・ 資源と発展
    - ・ 持続的資源利用と農業貿易自由化
    - ・ 農村の貧困削減と格差是正の制度設計
  - ・ 歴史と思想
    - ・ 二つの農業革命－現代農業はいまどこにあるのか：グローバル視点の比較農業環境史
    - ・ ライフスタイルから問う食と農：農学の批判理論を継承する



## 1-2 農業経済学の体系？

### <参考> 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻

- ・ 農企業経営情報学講座
  - ・ 農業組織経営学分野
  - ・ 経営情報会計学分野
- ・ 国際農林経済学講座
  - ・ 地域環境経営学分野
  - ・ 食料・環境政策学分野
  - ・ 森林・林業政策学分野
  - ・ 国際農村発展論分野
- ・ 比較農史農学論講座
  - ・ 比較農史学分野
  - ・ 農学原論分野
- ・ 寄附講座
  - ・ 食と農の安全・倫理論
  - ・ 次世代を担う農企業戦略論
  - ・ 農林水産統計データアーカイブ



## □ 主要大学農業経済学科・専攻作成のテキスト構成

### ● 食料環境経済学を学ぶ（東京農業大／食料環境経済学科編 2007）

- 第1部 食料経済を学ぶ…国際化と食料経済わが国の食料消費構造の変化等
- 第2部 環境経済を学ぶ…環境政策の経済学的基礎地域農林業資源の公益的機能等
- 第3部 農村経済を学ぶ…日本農業の特質と構造農業経営学の方法と課題等
- 第4部 国際農業経済を学ぶ…立地論とグローバル経済WTOと農業貿易等

### <参考> 東京農業大学（2学部4学科24研究室）

- 国際農業開発学科…農業開発経済学、農業開発政策、地域農業開発
- 食料環境経済学科…①食料経済分野＝食料経済、フードビジネス、国際農業・貿易、②農業経済分野…農業経済、農業政策、農業史・農村社会、③環境経済分野…地域経済、環境経済、環境政策
- 国際バイオビジネス学科…バイオビジネス経営学、バイオビジネス管理・診断学、マーケティング、経営情報学、バイオビジネス環境学、環境計画学
- 地域産業経営学科…地域産業資源、資源環境経営、地域産業戦略、産業連携戦略、戦略的マーケティング



## 1-2 農業経済学の体系？

## □ 主要大学農業経済学科・専攻作成のテキスト構成

### ● アグリビジネス論（京大経済／中野編 1999）

- 序 食糧調達体制の世界的統合と多国籍アグリビジネス
- 第Ⅰ部 南北アメリカ
  - ①アメリカの世界農業・食糧戦略／②アメリカ農業の構造変化と多国籍アグリビジネスによる世界食糧支配／③アメリカの農業資材産業とバイオテクノロジー／④穀物メジャーのカナダ進出と小麦ボードの空洞化／⑤ラテンアメリカのアグリビジネスと環境問題
- 第Ⅱ部 ヨーロッパとアフリカ
  - ⑥欧州統合と食糧・農業問題／⑦食料大国フランスとアグリビジネス／⑧欧州アグリビジネスの拠点イギリス／⑨EUの食肉フードシステムとアグリビジネス／⑩アフリカの輸出農業と飢餓問題
- 第Ⅲ部 日本とアジア
  - ⑪日本の農業・食料政策の転換とアグリビジネス／⑫多国籍アグリビジネスの日本市場進出／⑬日本アグリビジネスのアジア進出／⑭東南アジアのアグリビジネスと農業



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ 主要大学農業経済学科・専攻作成のテキスト構成

- 現代の食とアグリビジネス（京大経済／大塚・松原編 2004）
  - 第I部 現代の食とアグリビジネス
    - ①食ビジネスの展開と食生活の変貌／②フードビジネスと現代の食／③世界の食料事情と多国籍アグリビジネスによる食料支配
  - 第II部 国境を越える食料・農業とアグリビジネス
    - ④経済のグローバル化とコメ・ビジネス／⑤畜産物の生産・流通と食肉ビジネス／⑥果実・果汁と野菜のグローバル化／⑦冷凍食品生産拠点のアジア展開／⑧コーヒー・紅茶とアグリビジネス／⑨水産物市場のグローバル化
  - 第III部 21世紀の食をどうするか
    - ⑩世界の食料問題と遺伝子組換え作物／⑪食の安全と表示をどうするか／⑫地域に根ざした食と農の再生運動／⑬食と農をめぐる国際的運動



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ 主要大学農業経済学科・専攻作成のテキスト構成

- 農業・食料のグローバルガバナンスと多国籍アグリビジネス（京大経済／久野編 ????)
  - 第I部 農業・食料の国際政治経済学
    - ①世界食料危機と国際社会の対応／②多国籍アグリビジネスと食料支配の政治経済学／③農産物自由貿易レジームの構造と展開／④途上国農業開発レジームの構造と展開／⑤農業遺伝資源と知的所有権レジームの構造と展開
  - 第II部 多国籍アグリビジネスと「企業の社会的責任」
    - ⑥多国籍アグリビジネスとCSRイニシアチブ／⑦事例研究：青果物メジャーとCSRドールとチキータ／⑧事例研究：巨大食品企業とCSR—ネスレとユニリーバ／⑨事例研究：バイオメジャーとGMOのポリティクス／⑩事例研究：有機食品ビジネスのグローバル展開
  - 第III部 農業・食料ガバナンスと社会運動
    - ⑪多国籍アグリビジネスと市民社会組織の対応／⑫多国籍アグリビジネスと地域農業の対応／⑬国連「食料への権利」論と国家・国際機関の責務／⑭食料主権運動の課題と展望



## 1-2 農業経済学の体系？

### □ その他の農業経済学テキスト

- 農業・食料問題入門（田代洋一 2012）
  - 第1部 農業・食料問題とは何か
    - ①農業とは何か／②資本主義と農業・食料問題
  - 第2部 農業・食料問題の展開
    - ③戦後改革期の農業問題／④高度経済成長期の農業問題／⑤転換期の農業・食料問題／⑥グローバル化と農業・食料問題
  - 第3部 今日の農業・食料問題
    - ⑦食料問題／⑧農産物価格・直接支払い政策／⑨農業構造問題／⑩農業協同組合／⑪都市と農村

### □ 小活

- 理論的・体系的なアプローチ
- トピック的なアプローチ
- ケーススタディ集積アプローチ



## 2 農業の資本主義的發展と小農経営

### □ 農民層分解論

- 資本主義的経済法則の農業への貫徹、その表現としての農民層分解  
農業労働者 ← 小農 ↔ 中農 → 大農（資本主義的大経営）

**Table 1. Historical Highlights: 2007 and Earlier Census Years**  
[For meaning of abbreviations and symbols, see introductory text]

All farms	2007	2002	1997	1997	
Farms ..... number	2,204,792	2,128,982	2,215,876	1,911,659	
Land in farms ..... acres	922,095,840	938,279,066	954,762,602	931,795,255	
Average size of farm ..... acres	410	441	431	407	
Estimated market value of land and buildings <sup>1</sup> :					
Average per farm ..... dollars	791,138	537,833	416,007	449,743	
Average per acre ..... dollars	1,892	1,213	967	933	
Estimated market value of all machinery and equipment <sup>1</sup> ..... \$1,000	194,783,471	136,624,880	119,302,923	110,256,602	
Average per farm ..... dollars	89,357	66,570	53,851	57,673	
Farms by size:					
1 to 49 acres	232,849	179,346	205,390	163,615	
50 to 179 acres	620,203	503,772	530,902	410,033	
180 to 499 acres	660,530	658,705	694,489	692,972	
500 to 999 acres	360,360	300,617	420,215	402,769	
1,000 to 1,999 acres	149,713	161,552	179,447	175,690	
2,000 acres or more	92,056	99,070	103,007	101,460	
2,000 acres or more	80,393	77,970	74,426	74,612	





## 2 農業の資本主義的發展と小農経営

### □ 農民層分解論

表 米国の農場数と農産物販売額の販売規模別構成比(千戸、%)

	農場数構成比							販売額構成比						
	1982	1987	1992	1997	1997	2002	2007	1982	1987	1992	1997	1997	2002	2007
総農場数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
農産物販売規模別														
50万ドル以上	1.2	1.5	2.4	3.6	3.2	3.3	5.2	32.5	36.2	45.9	56.6	56.1	61.9	73.5
25~50万ドル	2.6	2.9	4.1	4.6	4.1	3.0	4.2	15.1	15.2	16.5	15.5	15.0	11.2	11.2
10~25万ドル	9.6	9.7	10.8	9.9	8.6	7.5	6.7	25.0	22.9	20.1	15.3	15.1	12.7	8.1
4~10万ドル	14.9	13.8	12.9	11.1	9.9	8.9	7.9	16.5	13.8	10.0	7.0	7.1	6.1	3.7
1~4万ドル	22.7	22.8	22.5	20.5	18.8	17.2	16.1	8.2	7.4	5.6	4.1	3.6	3.7	2.5
1万ドル未満	48.9	49.2	47.1	50.4	55.3	59.3	59.8	2.7	2.5	1.9	1.5	1.7	1.4	0.9

(出所) USDA National Agricultural Statistics Service 2007 Census of Agriculture, Volume 1: Chapter 1: Table 2.但し、2002年センサスで農家の定義が変更されたので、それ以前のデータと厳密な連続性はない。



## 2 農業の資本主義的發展と小農経営

### □ 農民層分解論

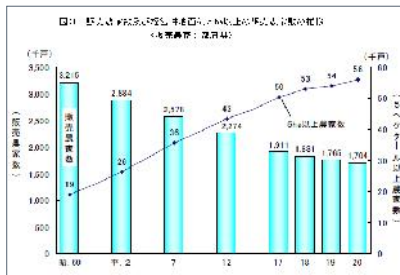


図3-1-2 土地利用型農業における20ha以上の経営体が耕作する面積の推移



図3-1-5 法人経営体数と農地面積に占める利用割合の推移



## 2 農業の資本主義的發展と小農經營

### □ 農民層分解論の科学性とイデオロギー性

- 農業の特殊性を認識しつつ、農業における資本主義的生産関係の發展を確認し、したがって社会変革の戦略をめぐる階級配置を確認することを課題とした
  - レーニン『ロシアにおける資本主義の發展』1899
  - カウツキー『農業問題』1899
  - 日本資本主義の性格規定をめぐる、講座派と労農派の論争
- 統計的事実とその解釈
  - 栗原百寿…小農標準化的傾向、中農化傾向
  - 大内力…大型小農化
  - 梶井功…小企業農
  - 御園喜博…企業的小農經營



## 2 農業の資本主義的發展と小農經營

### □ 農民層分解論の批判的繼承

- 多角的視点からの農民層分解論（田代・宇野・宇佐美 1975）
  - 労働市場と就業構造、生産力と經營対応、農家蓄積と土地所有
  - 農業內的論理だけで發展（蓄積）軌道を論じることの無意味
- 農民層分解論を、小農の解体による資本家的經營の成立という命題にのみ矮小化すべきではない（東井ほか 1986）
  - 歴史的條件の相違や国民經濟的な特殊性に応じて發展
  - 兼業化による農民的經營の存続は法則の反証ではなく結果
  - 古典的農民層分解論が、農民層分解の展開形態を、単に客体的・自然成長的な過程としてではなく、主体的・目的意識的な過程として把握している点の重要性
- 3つの潮流
  - 自作農制解体論…階層分解の進展（小企業農の成長）を展望
  - 農業解体論…零細農耕の内発的発展力を否定、土地国有化を展望
  - 自作農制擁護論…専兼ぐるみによる地域農業の再構成を主張



## 2 農業の資本主義的發展と小農経営

### □ 小農経営に固有な論理の対置

- チャヤノフ (1923) らの小農主義理論
  - 農業においては小経営がむしろ大経営に優越する
- 農民層分解の程度や形態に終始する議論への批判
  - 栗原「小農標準化論」の再評価 (玉真之介 1994)
    - 「わが国の農民層分解論にとっての本当の焦点は農業の資本主義化の検証にあるのではなく、国民経済の資本主義化の進展にもかかわらず小農的農業が広範かつ強靱に存在しつづける根拠を、小農経営に固有の論理と運動法則に内在化することによって明らかにすること」
  - 玉真之介 (1995)
    - 生活単位としての「いえ」の論理、農民的複合経営、小農的農業の市場対応 (地域の協同)
- 農業経営論、村落社会論、農業市場論などへ



## 2 農業の資本主義的發展と小農経営

### □ 主体形成論

- 変革主体形成論
  - 農民層分解→労農同盟論という論理
- 生産力担当層論
  - 中農標準化傾向・・・農民的生産力担当層の形成
  - 自己完結的な個別経営から協業・生産者組織へ
- 多様な担い手論
  - 農業の縮小再生産化・兼業滞留という現実
    - 家族農業経営の生産諸要素の分解と再統合
  - 生産組織論、集团的土地利用論、集落営農論。。。
- 地域農業再建論 (小池恒男 1994)
  - 兼業農家を視野に入れた地域農業の再建
  - 地域政策の視点・・・地域づくり・まちづくり
- 新しい主体形成論の模索 (田代洋一 2004)
  - 開かれた集落営農・・・新しい協同・アソシエーションの可能性



### 3 農業をとりまく市場への視点

#### □ 土地問題史観から市場問題史観へ

- 三島徳三 (1971)
  - 戦後の農業構造を零細農耕制の大枠にはめて、その発展的側面を見ない土地問題史観の問題性。市場を通じた、**農民層の商品生産者としての自立化傾向に対する評価視点**が必要。
- 川村琢・湯沢誠 (1976)
  - 資本の運動の貫徹だけを一方的にみるのではなく、それに包摂されつつ対抗しあう農民の対応を正しく位置づけ、それら**包摂・対応・対抗関係の展開**の中に日本農業の進路を見定める必要。
- 玉真之介 (1994)
  - 農業資本主義化論は「小農をいかに克服するか」に執着。そうではなく「**小農がいかに資本主義に対応してゆくか**」が課題であるべき。



### 3 農業をとりまく市場への視点

#### □ 主要な論者

- 川村琢の主産地形成論 (1960, 1971, 1976)
  - 小農による生産力形成と商業的農業の急速な成長→商業資本との競争と対抗→生産の集中と地域的分化の結果としての主産地の形成と協同組合形式による販売組織（農協）の発展という時代状況→**農民の市場対応論としての「農民的商品化」論**
- 美土路達雄の協同組合論と市場編制・市場連関論
  - 協同組合論・・・「小生産ないし流通の組分的集積・社会化」、「資本主義的社会化への対応としての組分的協業」、「経済的土台の変化に対応した社会運動」としての**近代的協同**
  - **農産物市場論から農業市場論へ**・・・農産物市場＋農村購買市場＋金融市場＋労働市場という市場の重層的構造への視点
- 湯沢誠による理論的整理 (1976, 1985)
  - 農業諸市場を通じた「資本の農業包摂」と「農民の順応と対抗」の関係を全構造的に捉える**対抗論的視角**



## 3 農業をとりまく市場への視点

### □ 農業市場論からフードシステム論への転回

- 新山陽子 (1996)
  - 1980年代半ば以降、産業組織論の新しい概念や寡占価格理論の導入によって、多様な競争構造の分析が展開され、制度、政策等々によって条件付けられた農産物市場・流通の固有の特質の認識が共通して重視されるようになってきた。

### □ フードシステム概念の提起

- 食生活 = 農 農水産業 + 食品産業 食品製造業・卸売業・小売業・外食産業
- 食品産業研究・・・1980年代半ばから
- 高橋正郎 (2002)・・・「国内農業だけを論じていたのでは、到底、わが国の食料問題の解明に到達できないことが明瞭になる。食品産業の分析を基礎に据え、それと農水産業、食料消費との関連を解明するフードシステム学の展開が、いかにわが国の食料問題を解くうえで不可欠か」



## 3 農業をとりまく市場への視点

### □ 国内外の食品経済学

- 米国
  - 産業組織論に依拠した食品産業の市場構造(S) + 市場行動(C) + 市場成果(P)の解明・・・ヨコの関係への視点
  - R.A.Goldberg 「アグリビジネス」概念の提起 (1957) →小野寺義幸らが紹介、日本に適用 (1982)
- 英国
  - フードチェーン概念による、各構成主体の相互関係に潜む問題の析出・・・タテの関係への視点
- 日本
  - 英国の成果に学びつつ、単純な「上」から「下」への流れを意味する「チェーン」ではなく、食品産業を軸としながら、さらに他の多くの関係主体を含んだ多角的な相互規定関係を理解するため、システム概念を提起



### 3 農業をとりまく市場への視点

#### □ 研究対象と研究方法

- フードシステムのパフォーマンス分析
  - 市場構造(S) + 市場行動(C) + 市場成果(P)
  - 構成主体間関係・・・ココの企業間関係 + タテ(異業種)の構造
- フードシステム構造の動態性とその変動要因
  - 食品製造業、食品流通業、外食産業などの構成主体の企業行動
  - 消費者ニーズの変化
  - 多面的な技術革新 (ex. コールドチェーン、BT、IT)
  - 国や都道府県が行使する法的規制の変化
- 構成主体間関係の分析における留意点
  - 一般的な組織関係論 (ex. 取引費用論) との相違
    - 原料供給者 (農業) や末端消費者 (食生活者) との関係に注目
    - 構成主体の行動原理の相違・・・生活の論理と企業の論理
  - 学際的研究 (食品工学、栄養学、行動科学など)



### 3 農業をとりまく市場 (と制度) への視点

- 構造論的分析枠組み (新山陽子 2001)
  - 複雑な構造をもつフードシステムの全体を一度に解明しうる概念と方法を提起することは困難であるため、解明の対象とすべき全体構造をいくつかの副構造に分割し、それぞれの副構造を解明し、かつ副構造相互の関係を明らかにすることによって、全体像に接近。
  - 5つの副構造
    1. 連鎖構造 = 川上から川下への関連産業の連鎖様式
    2. 競争構造 = 特定段階の産業の内部構造
    3. 企業結合構造 = 企業間の結合関係 (結合形態、結合種類) とそれから生じる行動
    4. 企業構造・企業行動 = 企業内部構造とそれに対応する企業行動
    5. 消費構造と消費者の状態
  - 基礎条件・・・副構造を規定
    - a.商品特性、b.制度・習慣・ルール・文化、c.公共政策と政策主体としての公権力、d.社会的技術条件、e.社会的市場条件、f.他国のフードシステムとの競争関係、国際貿易ルール



### 3 農業をとりまく市場（と制度）への視点

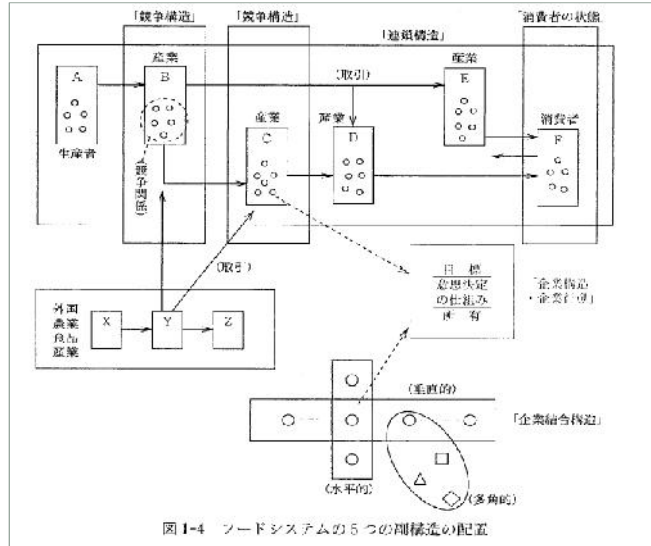


図1-4 フードシステムの5つの階級の配置



### 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

#### 政治経済学的アグリビジネス論の系譜

##### ● 時代背景と経緯

- 1970年代・・・世界食糧危機 (農産物市場の逼迫) + 米国食料戦略 (“武器としての食糧”) + 穀物メジャーの台頭
- 関連文献の相次ぐ翻訳・出版
  - ジェームズ・トレイジャー 『穀物戦争』 (1973=75)
  - スーザン・ジョージ 『なぜ世界の半分は飢えるのか』 (1977=84)
  - ダン・モーガン 『巨大穀物商社』 (1979=80)
  - フランセス・ラッパ&ジョセフ・コリンズ 『食糧第一』 (1979=82)
- 農業経済論からの接近
  - 中野一新らによる、R.バーバック&P.フリリン 『アグリビジネス』 (1980=87) の翻訳と課題提起 (後述)
  - 宮崎宏ら 『穀物メジャー：食糧戦略と日本侵攻』 (1988)
- 米国経済論・多国籍企業論からの接近
  - 関下稔 『日米貿易摩擦と食糧問題』 (1987)
- 総合商社等の農業進出 = 直営型畜産インテグレーション
  - 宮崎宏 『農業インテグレーション』 (1972)



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 政治経済学的アグリビジネス論の系譜

- **現代農政研究会** (京大経済・中野研究室→久野研究室)
  - 多国籍アグリビジネス企業による食料供給や食生活の支配・再編等、**社会的・政治的側面の構造的把握と実証的研究**
  - 情勢認識
    - 「1960年代以降、生産・加工・流通にまたがるグローバルな規模での資本循環をつうじて利潤の極大化をめざす多国籍企業のビヘイビアが、世界経済全般の動静に絶大な影響を及ぼすようになったが、70年代に入ると農業や食糧の分野でも、多国籍企業の経営戦略が多大な影響を及ぼすようになり、**世界の食糧調達体制の絵図が大きく塗り替えられていくことにつながった**」(中野 1998)
  - 農業資本主義化理論の進化
    - 「著者 (=バーバック&フリン) はマルクス主義のいわば『本流』の立場から、現代農業の資本主義的発展と農民層の両極分解を主張するが、それは、マルクスやレーニンの古典的見解のたんなる引き写しではない。…いずれの地域においても、農業生産の頂点に立つ今日の大規模経営は、**多国籍アグリビジネスに支配され、それへの従属的地位に甘んじながら資本主義的成長を遂げつつある**。この点にこそ現代農業の最大の特徴がある」(中野 1987)



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 基本的な分析視角

- **農業の工業化** (industrialisation of agriculture)
  - 資本と技術の適用を通じた生産過程の再編成 → 生産と流通の各工程が工業化された食料システムに統合化 = 迂回的農業参入
  - 科学技術の農業への広範な応用 → 直営生産や契約農業の形態をとったアグリビジネスの直接的・間接的な農業参入
  - 資本による農業の包摂 (appropriation / subsumption)
- **垂直的統合・調整** (vertical integration/coordination)
  - 食品加工部門の多角化、川上～川下の全工程での統合化
- **農業・食糧調達体制のグローバル化** (globalisation)
  - 一方における垂直的統合のグローバルな規模での展開、他方におけるアメリカ型食糧消費モデルの世界規模での普及
- **政策形成過程での政治的影響力** (political processes)
  - アグリビジネスと米国政府等との癒着、国内外での政治交渉への関与 → 政治経済学 ※詳しくは国際農政論で





## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 基本的な分析視点

#### ● 産業論から政治経済学へ

- 「多国籍企業による農業および食糧支配がグローバルな規模で強化され、農産物の生産から加工・流通・消費にいたる全工程が多国籍アグリビジネスの世界的な統合体制に組み込まれてくると、それまで各国政府が実施してきた農産物価格支持政策や、2国間ないし多国間で実施してきた農産物の国際商品協定といった**伝統的な農業調整政策が、国内レベルでも国際的なレベルでもしだいに空洞化**していくことにつながる。現に、ガットURでの農業最終合意にいたる一連の経緯にしても、…グローバルな規模での資本循環をつうじて利潤極大化をめざす**多国籍アグリビジネスの経営戦略と関連づけて分析しなければ、その核心に迫ることは難しい**。また、…われわれが日本と世界の21世紀の農業・食糧政策のあるべき方向を展望するにあたって、多国籍アグリビジネスのビヘイビアについて、十分留意しておかなければならない」(中野1998)



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 基本的な分析視点

#### ● 対抗論的視点

- 「地域に根を張って生産者と消費者の関係を再構築する流れ」と「多国籍企業主導のグローバル化」の流れとの**せめぎ合い**(大塚・松原2004)
- 「**批判論**の深まりと、**規範論**としての新たな発展」(辻村2005)
- 補足的な分析視点
  - 辻村英之(2005)…アグリビジネス論アプローチは「**支配主体の解明**に関して十分な成果を上げているが、**支配形態や支配力の要因**にまで議論が至っていない」と批判し、
    - ゲレフィらの「**グローバル価値連鎖**」の分析枠組み(主体間関係+主体内部の**行動・構造+連鎖全体の統治構造**)を対置
    - 食料・食品の生産から消費までの「連鎖構造」を、①企業の所有統合、②取引形態、③価格形成システム、の分析をつうじて解明した新山陽子の分析枠組みを対置



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 多国籍企業の政治的影響力 (J.Clap and D.Fuchs 2009)

- **道具的権力** (instrumental power)
  - 行為主体への着目、権力の関係論的把握 (行為→反応→結果)
  - ロビー活動、政治資金、回転ドア等を通じた「利害と影響力のネットワーク」
- **構造的権力** (structural power)
  - 道具的権力が行使される以前の、政策選択の構造的な制約性
  - グローバル資本主義における資本移動可能性→ *agenda-setting*
  - 官民連携や企業の自主規制の広がり→ *rule-making*
- **言説的権力** (discursive power)
  - 道具的・構造的権力を行使できる条件=政治主体としての正当性
  - 権力関係への社会学的洞察=権力としての規範・イデオロギー
  - 問題や解決のフレーミング、知識や規範の形成、その正当化→ 同意による支配 cf. M.Goldman (2005) *Imperial Nature*, Yale Univ Press



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 欧米農業社会学の理論的諸潮流

- **【マクロ】フード・レジーム (FR) 論**
  - 国家ないし国際関係における農業・食料をめぐる政治経済体制や制度の枠組み構造を分析の単位・対象に設定。社会全体の資本蓄積体制に果たす農業部門の役割を政治経済学的に分析
- **アグリフード・レジーム (国際的調整体制) /アグリフード・コンプレックス (商品複合体) ……H.Friedman, P.McMichaelら**
  - 農業生産における国際的な分業や農業政策形成を、国際的な政治経済的構造の歴史的展開過程に照らして把握
  - 国境を越えた商品連鎖における農業と工業の結合関係、農民・企業・労働者・消費者の連結関係
- **グローバル・ポストフォーディズム ……A.Bonnanoら**
  - レギュレーション理論とを適用。グローバル資本主義における多国籍企業の台頭と国家の変容・再定義、規制と調整をめぐる国家と多国籍企業のビヘイビア



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 欧米農業社会学の理論的諸潮流

#### ● 【メソ】 フード・システム (FS) 論

- 企業群や産業部門に焦点を当て、その構成主体の競争構造や連結構造に着目して分析
- 商品システム分析・・・W.H.Friedlandら
  - ①生産方法、②生産者組織、③労働管理、④科学技術の適用、⑤マーケティング・流通方式などに注目して、農産物の生産・流通に関する主体間関係を分析
  - +地理的・社会的な範囲、国家関与の態様、商品の文化的特性
- 商品横断的企業クラスター分析・・・W.D.Heffernanら
  - 商品や部門を跨いだアグリビジネスの事業展開。多角的・寡占的な垂直統合体ともいうべき巨大アグリビジネスの生産・流通支配の様相を実証的に分析
- その他
  - グローバル商品連鎖論 (G.Gereffi) 等



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 欧米農業社会学の理論的諸潮流

#### ● 【ミクロ】 フード・ネットワーク (FN) 論

- 企業行動や企業内の組織構造、農業経営内の生産構造などミクロないしローカルな行為主体に焦点を当て、その多様性と変化の過程を分析・・・J.D.van der Ploeg, T.Marsden, J.Murdock, L.Buschなど
- アクターネットワーク理論の適用
  - 政治経済学的なマクロ構造からのアプローチを批判。行為主体や行為対象を可能な限りミクロな単位に分解し、その複雑で状況依存的な関係構築過程を重視
- コンヴァンション理論の適用
  - 品質形成におけるミクロな主体間関係の調整メカニズム（個人や企業などの相互のコミュニケーションや取引を通じて形成される合意、当事者間で自明とされる慣習やルール）を重視



## 4 政治経済学・多国籍企業研究からの視点

### □ 欧米農業社会学の理論的諸潮流

#### ● 3アプローチの相互関連性

- 「これらのアプローチは、農業・食料をめぐって、政治経済体制、システム、社会的行為というそれぞれの局面に注目して現象を分析しようとするものである。こうした視点からの把握によって、それぞれの局面ごとに異なった像が浮かび上がることになる。そして一般の社会現象がそうであるように、**体制、システム、社会的行為という三つの分析水準は、相互に影響を与えあうという関係にある**」(立川2004)
- FR・・・制度的環境条件や政治的枠組み条件、FSやFNの構成主体に対する行動規範や解釈範囲を提供
- FN・・・各行為主体の適応的行動や批判的行動を通じて、FRやFSの動態化の起点
- FS・・・FRとFNの双方からの影響関係を経て形成された構造

#### ● 社会科学の根本問題

- 構造 structure と主体 agency、社会 society と個人 individual の関係をどう捉えるか・・・支配/包摂と対抗/対応の弁証法



図 1-1 生産力の概念

